

バスラ日誌（6月23日）－150号－（光陰矢のごとし）

- 1 思えば遠くへ来たものだと書いた第140号から、もう10日も経った。本日、第150号、2～3回休刊日をもたらしたので、第4次業務支援隊から引き継いで153日目位だろうか。バスラに来て163日目、出国してから167日目である。光陰矢のごとし。残された時間は非常に少なく、やるべきことはそれに比してたくさんある。少々不安に思っているのは、現在、師団司令部の主要な役職者を含めて交代の時期にきている人が多く、今調整している人と、7月の緊要な時期、調整を実行に移す段階の時にいる人が異なるという点である。
これまで、第6次業務支援隊バスラ連絡班要員の [REDACTED] 以下4名の方とは頻繁に連絡をとり、交代する場合にはスムーズに申し送れるように準備していただいていた。我々が最後まで安心して勤務できたのは、第6次業務支援隊要員のみなさんが、不透明な状況の中、真剣に準備していて下さったからである。[REDACTED] からは、我々が無事に帰国することを祈る、との最後のメールを頂いた。心から感謝している。
(前田2佐)
- 2 バスラ日誌で以前、会話のネタがなかったら、イラクに来てどれくらい経つのかを聞くことにしていると紹介したが、その会話の続きは必ず「で、あとどれくらいここにいるの？」である。今まで我々はその質問に答えることができなかった。「まだ、決まってないんだよ。」「『どうして？』『政府が撤退を考えているから』『撤退するまでいるの？』『長くなれば、交代要員が来るし、短ければ我々が最後の日本隊になる。』『帰国する日がわからないなんて、家族は大変だね。』等々、このような会話が続くのが常だった。しかし、今では日本隊の撤退が決定し、我々の帰る日も見えてきた。みんなに『良かったね』、日本人がいなくなって、寂しくなるよ。』等の声を掛けられるたびに、我々の任務が最終段階に来ていることを再認識する。軍事作戦で最も困難といわれる撤退作戦を、バスラからしっかり支えていけるよう、最後まで気を引き締めて勤務していこうと思う。
([REDACTED])
- 3 本日快晴。バスラ9名、極めて健康。
([REDACTED])
[REDACTED]